特集2

**昔の写真と見比べながら現地を巡る**

シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり
第17・18回

# 阿賀野川上流域の近代産業ツーリズム

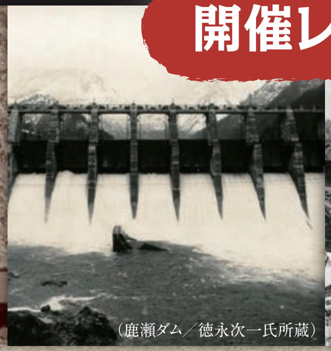
## 鑛山・水力発電・電氣化學がもたらした光と影

開催レポート！

（草倉川港／柏崎市立図書館・小竹コレクション）

（足尾銅山／小野崎一徳氏撮影）

（持倉銅山製錬所）


（鹿瀬ダム／徳永次一氏所蔵）

（アセトアルデヒド製造施設／鹿瀬工場タイムス）

### 上流域の近代産業を巡る

昨年10月29日(土)・30日(日)の2日間にわたって、阿賀野川流域住民の方々を主な対象に、阿賀野川上流域にある近代産業スポットを巡る地域再発見講座を開催しました。

参加された方々は近代日本産業史の光と影を阿賀野川上流域を巡って学べることに感嘆し、その教訓を後世に伝えていく重要性を再確認していました。ここでは当日2日間の様子をスナップ写真を中心にお伝えします。

**第18回　持倉銅山・鹿瀬ダム・昭和電工**

日時：平成28年10月30日（日）
場所：道の駅「阿賀の里」
当日 50名参加

**第17回　草倉銅山・足尾銅山（講演会）**

日時：平成28年10月29日（土）
場所：阿賀町公民館
当日 45名参加

**参加者の主な感想等**

- ●近代産業の影で負の部分が生じたのは残念だが、それがなければ現代はなかった…（秋葉区・70代）
- ●足尾銅山の技術が様々な銅山に引き継がれ、現代の企業にも大変大きな影響を与えたことを知った。
- ●歴史を詳細に知れて大変良かった。「光と影」のように、物事への冷静な洞察が重要。（五泉市・70代）
- ●個人では入ることができない水力発電所内に入れて、とてもわかりやすい説明だった。（秋葉区・70代）
- ●光と影がよく分かった。本当に有機水銀の事件が起きてなければと残念でならない。（江南区・60代）
- ●まさしく日本の産業の歴史を再確認できた。これからも公害をなくすため続けてほしい。（阿賀野市・70代）

※このほか講師・地元ガイド・東北電力・阿賀町役場鹿瀬支所職員の方々への感謝の言葉を多数頂きました。

写真奥が草倉本山跡
鹿瀬支所職員2名

▲草倉本山
（明治期／小野崎氏所蔵）

### ▲草倉銅山追体験プログラム

初日の午前中は、NPO法人足尾歴史館副理事長の小野崎敏氏から、「足尾銅山の光と影」と題した講演を行っていただきました。小野崎氏は足尾の専属写真家・小野崎一徳氏の孫に当たります。

午後は阿賀町役場鹿瀬支所の職員2名がガイドとなって、草倉銅山の写真が当時撮影された現場を巡り、昔と今を見比べる環境学習プログラムを実施しました。

足尾銅山の製錬所
（明治期／小野崎一徳氏撮影）

▲講演会「足尾銅山の光と影」
写真の男性が小野崎敏氏

◀豪華な粗食弁当「秋のイザベラ・バード」
（農家カフェお茶の間久太郎）

草倉銅山の川港跡▶
（最右は当時の川港）

（明治期／小野崎敏氏所蔵）

※以下の写真はすべて山口冬人氏撮影

### ▼昭和電工㈱関連スポット巡り

昭和電工㈱の関連スポットとして、原石山・工場高台・排水口を巡り、当時の写真と見比べながら、公害発生に至るまでを学びました。

原石山

工場高台

持倉銅山遺構

二日目の最初は、阿賀町五十島地区にて持倉銅山史料展覧会を開催し、持倉銅山に詳しい小田辰兵衛氏から解説していただきました。

▲持倉銅山史料展覧会

当日は東北電力㈱の全面協力のもと、職員の方々から鹿瀬ダムをご案内いただき、第二鹿瀬発電所の建屋内部も見学させていただきました。

▶▲鹿瀬ダム・発電所見学

NIIGATA CSR STORY

特集3

# 新潟水俣病の光と影を学ぶ 企業CSR研修レポート

▲最初に鹿瀬工場の光と影の歴史を学ぶ簡単な座学を受ける。

※P.6〜7の引用表示がない写真はすべて山口冬人氏撮影

## 麒麟山酒造㈱の社員が研修

FM事業では昭和電工㈱等と協働して、旧昭和電工㈱鹿瀬工場の光と影の歴史を学び、同工場（＝現・新潟昭和㈱）の現在の排水処理を視察する企業CSR研修を毎年度開催しています。

今年度は、同じ阿賀町にある酒造会社・麒麟山酒造㈱の社員43名の方々を対象に、CSR研修を3回に分けて受講していただきましたので、その様子をレポートします！

**麒麟山酒造㈱**　※写真左右2枚の提供：麒麟山酒造㈱

住所●新潟県東蒲原郡阿賀町津川46　電話●0254-92-3511

ホームページ●http://www.kirinzan.co.jp

大河・阿賀野川と清流・常浪川が合流する麒麟山の麓で地酒を醸し続けてきた酒造会社。これまで酒米の阿賀町産比率100%を目指し、仕込み水に欠かせない常浪川の伏流水を清浄に保つ森づくりなどを実践されてきました。

## 知っていそうで、知らない CSR基礎講座

corporate social responsibility

2000年代に入って、「企業の社会的責任」を意味する英語の頭文字を表す「CSR」という専門用語が使われ始めます。しかし、これまでFM事業のCSR研修を実施する中で、「言葉を知らない」「知っているが詳しい意味を知らない」と仰る方々も少なくありませんでした。

そこで今回、CSRの基礎的な内容を簡潔に図解してみましたので、この機会にお目通しいただければ幸いです。

**Corporate Social Responsibility**
企業の　社会的　責任

**法令遵守**
「公害を起こさない」もココ！
&
**社会貢献 環境取組**

- 日本では昭和の高度成長期に公害を経験したこともあり、当初は企業による法令遵守を意味していました。
- しかし、企業による環境ＩＳＯの取得などが盛んになって以降は、環境取組や社会貢献も含むようになります。

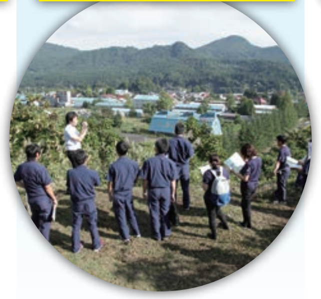


### ステップ1

**①光と影の歴史を座学します。**

▲まず最初に、地元自治体の阿賀町鹿瀬支所長からご挨拶。続けて、昭和電工㈱鹿瀬工場の光と影の歴史を、座学及び映像作品を通じて簡単に学びます。

### ステップ2



**②工場周辺スポットを巡ります。**

▲次はバスに乗り込んで、鹿瀬ダムや排水口など工場周辺のスポットを巡りながら、鹿瀬工場の光と影の歴史を追体験していきます。

### ステップ3

**③工場の事務所で説明を受けます。**

▲いよいよ、鹿瀬工場（＝現・新潟昭和㈱）の内部に入場します。まず、歴史ある事務所に入り、工場の概要や排水処理の仕組みに関する説明を受けます。

### ステップ4

**④排水処理施設を視察します。**

▲次に職員の案内で、排水処理施設を視察して回ります。工場内でより安全・安心な仕組みで処理がなされ、阿賀野川へ排水されていると実感できます。

### ステップ5

**⑤グループワークで本日を振り返ります。**

▲最後に、グループワークを通じて本日の振り返りを行うことで、CSRの重要性や具体的な取組の立案について、理解を深めることができます。

### CSR研修に参加した麒麟山酒造㈱社員の皆さんのご意見・ご感想

- 今回の研修を通じ、今までの昭和電工のイメージの変化が一番印象に残った。水俣病のイメージが強かったので、昔と違う活動や取組を知って大変勉強になった。このことをもっと多くの人に知ってほしい。
- 酒造りにおいて今後の“水”へのこだわりをより深い知識でお客様にお伝えするとともに、私達がCSR活動を通して地域活性化に貢献できるよう今後も取り組んでいきたい。
- 企業として、さらなる法令の順守の大切さを学びました。今後も環境への取組の強化を図っていきます。
- 弊社のCSRの取組には自信を持っており、対外的にもっと発信すべきと思った。美味しい酒のバックボーンをCSRを通して形成していることをPRしていきたいと思う。

企業の法令遵守が当然となった現在、CSRの主流は「社会貢献や環境取組」の様々な実践に移っており、おおよそ次の3種類に分類できます。

### 社会貢献・環境取組の種類

朝篠山市ホームページ内「(株) 阪急交通社が篠山宮代の里で森林保全活動を行いました（ささやま写真新聞）」ページから引用

**環境への取組**

企業の森づくり、$CO_2$の排出削減、環境負荷低減…など

朝日新聞デジタル（2016年4月1日5時）記事より引用

**人権への配慮**

従業員・取引先・障がい者・児童・外国などへの配慮…など

株式会社クボタホームページ内「KUBOTA REPORT 2016 事業・CSR報告書」ページから引用

**地域・社会貢献**

地域づくり・病院など社会インフラ整備・メセナ…など

さらに、CSR自体は企業に利益をもたらさずコストもかかることから、本業とあまり関連のないCSRを疑問視する企業も出てきました。そこで近年は、なるべく**本業の商品やサービスと関連のあるCSR**が求められ、そうした商品やサービスのブランド価値や売上を高めることが期待されています。